

## 令和3年度 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 業務実績評価結果

東京都が設立した地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（以下「法人」という。）の令和3年度業務実績評価について、お知らせいたします。

### 1 評価制度の概要

- 知事は、法人の各事業年度の業務実績について、地方独立行政法人法第28条及び東京都地方独立行政法人評価委員会条例第2条の規定に基づき、附属機関である東京都地方独立行政法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見を聴いたうえで、評価を行うこととなっています。
- 評価委員会は、矢崎義雄氏（公益財団法人榊原記念財団理事長）を委員長とし、計22名の外部有識者で構成されています。当法人については、委員長の矢崎氏を分科会長とする高齢者医療・研究分科会に意見を聴いています。

### 2 評価方針と手順

- 知事が定め法人に指示した5年間の中期目標の達成に向け、法人が作成した中期計画の事業の実施状況を確認すること、法人の業務運営の改善・向上に資することなどを評価の基本方針とし、法人から提出された業務実績等報告書をもとに、法人に対するヒアリング等を実施するとともに、評価委員会から意見を聴取しました。

### 3 評価結果の概要

- 評価は、「項目別評価」と「全体評価」とで実施しました。
- 項目別評価は、「高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及」「高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究」などの分野における、令和3年度計画の計20項目について、事業の進捗状況・成果を5段階で評価しました。
- 全体評価は、項目別評価を基礎とし、法人の中期計画の進行状況全体について評価しました。

#### 項目別評価（20項目）

評定S（年度計画を大幅に上回って実施している）…1項目

救急医療

評定A（年度計画を上回って実施している）…12項目

血管病医療／高齢者がん医療／認知症医療／生活機能の維持・回復のための医療／高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究／高齢者の地域での生活を支える研究／老年学研究におけるリーダーシップの発揮／研究推進のための基盤強化と成果の還元／医療と研究とが一体となった取組の推進／収入の確保／コスト管理の体制強化／その他業務運営に関する重要事項

評定B（年度計画を概ね順調に実施している）…7項目

評定C（年度計画を十分に実施できていない）…なし

評定D（業務の大幅な見直し、改善が必要である）…なし

## 全体評価

### 1 総評

- 全体として年度計画を上回って実施しており、優れた業務の進捗状況にある。
- 病院部門については、新型コロナウイルス感染症対応のため、診療を制限せざるを得ない状況下においても、三つの重点医療（血管病、高齢者がん及び認知症）について、低侵襲な治療など高齢者の特性に合わせた医療の提供に努めるとともに、救急患者を積極的に受入れ、高齢者の急性期医療を担う病院としての役割を果たした。
- 研究部門については、高齢者に特有な疾患に関する研究等を推進し、過去最高水準となる競争的外部資金を獲得したほか、研究支援体制の強化により、研究成果の実用化や社会への還元を一層推進した。
- 経営部門については、新たな施設基準の取得等により収入確保に向けた取組を強化するとともに、コロナ禍において公的医療機関としての役割を果たした。
- 地域の医療機関等との更なる連携や、地域における専門人材の育成の充実、コロナ禍における経営状況を踏まえた医業収入の一層の確保に向けた取組の強化については、引き続き求められる。

### 2 都民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する事項

- 血管病医療について、低侵襲な治療や多職種連携による早期リハビリテーションを着実に実施するとともに、急性期脳卒中患者に対してより適切な医療を提供するためSCUの活用を推進するなど、高齢者の多様な症例に対して適切な治療の提供に努めた。
- 新型コロナウイルス感染症流行下において、病床の一部を休止しながらも、地域の関係機関との連携体制を強化し、救急患者の積極的な受入れを行った。
- 高齢者に特有の疾患に関する研究や老年症候群の克服に向けた研究に着実に取り組み、ホルモン療法が効かなくなった前立腺がん・乳がんに対する新しい治療薬候補を発見するなどの成果を示した。

### 3 法人の業務運営及び財務状況に関する事項

- 医師事務作業補助者を積極的に活用することにより、組織的な負担軽減や計画的なタスクシフト/シェアによる医師の負担軽減と患者サービスの両立を実現し、業務の改善に努めた。
- コロナ禍においても医療サービス水準を落とさぬよう、PCR検査後の直接面会の実施等を継続し、患者サービスの向上につなげた。
- 新型コロナウイルス感染症流行下においても、新規患者の獲得や平均在院日数の短縮、新たな施設基準の取得等により、医業収入確保策を推進するとともに、診療材料費や医薬品費等の見直しを図り、コスト管理を推進した。

### 4 中期目標・中期計画の達成に向けた課題、法人への要望

- 令和4年度は、第三期中期目標期間の最終年度であり、その達成状況が問われるとともに、次期の中期目標・中期計画につなげる重要な年度となる。  
新型コロナウイルス感染症など医療・研究を取り巻く社会状況を踏まえ、東京都における高齢者医療・研究の拠点として、地域の医療機関等と連携を図りながら、その役割を着実に果たすとともに、目標達成に向け、法人一丸となって取り組むことが期待される。